

## 平成 29 年 12 月期 中間決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成 29 年 8 月 18 日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社はかた匠工芸  
 コード番号 3610 URL <http://www.takumikougei.jp>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 岡井 弘志  
 問合せ先責任者（役職名） 取締役管理部長（氏名） 今里 恵子 TEL 092-581-7232  
 中間発行者情報提出予定日 平成 29 年 9 月 29 日  
 配当支払開始予定日 —  
 中間決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 中間決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

### 1. 平成 29 年 12 月期中間期の業績（平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日）

#### （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29 年 12 月期中間期	589	82.2	3	—	1	—	1	—
28 年 12 月期中間期	323	5.6	△12	—	△13	—	△13	—

	1 株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
29 年 12 月期中間期	2.71	2.68
28 年 12 月期中間期	△26.86	—

（注） 1. 平成 28 年 12 月期中間期の潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益については、潜在株式が存在するものの、1 株当たり中間純損失を計上しているため記載しておりません。

#### （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29 年 12 月期中間期	287	△43	△17.1	△95.18
28 年 12 月期	243	△44	△20.8	△97.89

（参考）自己資本 29 年 12 月期中間期 △49 百万円 28 年 12 月期 △50 百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭
28 年 12 月期	0.00	0.00	0.00
29 年 12 月期	0.00		
29 年 12 月期(予想)		0.00	0.00

### 3. 平成 29 年 12 月期の業績予想（平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,092	24.3	18	125.0	14	366.6	13	—	26.23

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理及び簡便な会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料2ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項 (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年12月期中間期	517,700株	28年12月期	517,700株
② 期末自己株式数	29年12月期中間期	一株	28年12月期	一株
③ 期中平均株式数	29年12月期中間期	517,700株	28年12月期中間期	517,000株

※ この中間決算短信は、中間監査手続きの対象外です

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	2
中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	2
3. 中間財務諸表 .....	3
(1) 中間貸借対照表 .....	3
(2) 中間損益計算書 .....	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
(5) セグメント情報等 .....	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(7) 重要な後発事象 .....	9

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、提出日現在において当社が判断したものであります。

### （1）経営成績に関する定性的情報

当中間会計期間におけるわが国経済は景気の緩やかな回復基調が続くなか、個人消費は消費者マインドの改善もあり持ち直しが続いております。人手不足を背景に雇用環境も改善傾向が持続し、消費増税延期により下振れ要因がなくなるなか、賃金の伸びは低いため所得の回復ペースは緩やかに進んでいます。

この状況下、当社は、平成26年4月に東京銀座・京都祇園に開業した男きもの専門店SAMURAIの男きもの事業の推進を経営の重点施策と位置付け、広告宣伝・店外催事など販売に注力してまいりましたが、売上高は29,377千円、営業損失は4,355千円となりました。

一方、レディース和装事業につきましては、日本和装ホールディングス社の新・きもの着付け教室の受講者増加による販売回数増加、主力製品の継続製品投入による受注本数の増加により、受注状況が前年同時期86.6%増加し、売上高は560,758千円、営業利益は8,067千円となりました。

これらの結果、当中間会計期間における売上高は589,955千円、営業利益は3,712千円、経常利益は1,928千円、中間純利益は、1,403千円となりました。

### （2）財政状態に関する定性的情報

#### （流動資産）

当中間会計期間末における流動資産の残高は217,383千円で、前事業年度末に比べ40,953千円増加しております。現金及び預金の増加21,405千円、たな卸資産の増加14,229千円が主な変動要因であります。

#### （固定資産）

当中間会計期間末における固定資産の残高は70,099千円で、前事業年度末に比べ2,916千円増加しております。工具、器具及び備品の取得による増加3,098千円、減価償却による減少232千円が主な変動要因であります。

#### （流動負債）

当中間会計期間末における流動負債の残高は222,387千円で、前事業年度末に比べ27,564千円増加しております。前受金の増加34,073千円が主な変動要因であります。

#### （固定負債）

当中間会計期間末における固定負債の残高は108,129千円で、前事業年度末に比べ14,901千円増加しております。長期借入金の増加12,320千円、リース債務の増加2,581千円が変動要因であります。

#### （純資産）

当中間会計期間末における純資産の残高は△43,035千円で、前事業年度末に比べ1,403千円増加しております。当中間会計期間の中間純利益による増加1,403千円が変動要因であります。

## 2. サマリー情報（その他）に関する事項

中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

3. 中間財務諸表  
(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当中間会計期間 (平成29年 6 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,222	30,628
売掛金	7,380	3,937
たな卸資産	144,185	158,414
その他	15,641	24,402
流動資産合計	176,429	217,383
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品 (純額)	556	3,557
土地	63,762	63,762
有形固定資産合計	64,319	67,319
無形固定資産	538	403
投資その他の資産	2,325	2,376
固定資産合計	67,182	70,099
資産合計	243,612	287,482

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当中間会計期間 (平成29年 6 月 30 日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	16,096	19,324
短期借入金	130,000	111,000
1年内返済予定の長期借入金	18,000	22,920
リース債務	—	375
未払法人税等	1,607	1,041
未払消費税等	1,753	2,819
未払金	12,276	16,070
未払費用	6,623	6,699
前受金	7,284	41,358
その他	1,180	778
流動負債合計	194,823	222,387
固定負債		
長期借入金	93,228	105,548
リース債務	—	2,581
固定負債合計	93,228	108,129
負債合計	288,051	330,517
純資産の部		
株主資本		
資本金	108,850	108,850
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△159,526	△158,122
利益剰余金合計	△159,526	△158,122
株主資本合計	△50,676	△49,272
新株予約権	6,237	6,237
純資産合計	△44,438	△43,035
負債純資産合計	243,612	287,482

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間	当中間会計期間
	(自 平成28年 1 月 1 日 至 平成28年 6 月30日)	(自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年 6 月30日)
売上高	323,734	589,955
売上原価	114,368	213,393
売上総利益	209,366	376,562
販売費及び一般管理費	221,383	372,849
営業利益又は営業損失 (△)	△12,017	3,712
営業外収益		
受取利息	2	0
手数料収入	38	39
その他	61	35
営業外収益合計	103	74
営業外費用		
支払利息	1,381	1,518
売上割引	—	338
その他	157	1
営業外費用合計	1,538	1,858
経常利益又は経常損失 (△)	△13,452	1,928
税引前中間純利益又は税引前中間純損失 (△)	△13,452	1,928
法人税、住民税及び事業税	454	525
法人税等合計	454	525
中間純利益又は中間純損失 (△)	△13,907	1,403

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

	前中間会計期間	当中間会計期間
	(自 平成28年 1 月 1 日 至 平成28年 6 月30日)	(自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年 6 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失 (△)	△13,452	1,928
減価償却費	1,361	232
受取利息	△2	△0
支払利息	1,381	1,518
売上債権の増減額 (△は増加)	△325	3,442
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△20,524	△14,229
その他資産の増減額 (△は増加)	2,545	△7,978
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,991	3,227
前受金の増減額 (△は減少)	24,290	34,073
その他負債の増減額 (△は減少)	—	3,794
その他	262	399
小計	△2,473	26,410
利息の受取額	2	0
利息の支払額	△1,381	△1,518
法人税等の支払額	△1,021	△1,091
営業活動によるキャッシュ・フロー	△4,873	23,800
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	—	△360
その他	—	△200
投資活動によるキャッシュ・フロー	—	△560
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△9,000	△19,000
長期借入金の純増減額 (△は減少)	—	30,000
長期借入金の返済による支出	△10,500	△12,760
リース債務の返済による支出	—	△74
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,500	△1,834
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△24,373	21,405
現金及び現金同等物の期首残高	41,597	9,222
現金及び現金同等物の中間期末残高	17,223	30,628

#### （４）継続企業の前提に関する注記

当社は、当中間会計期間において中間純利益 1,403 千円を計上したものの、前事業年度に引き続き、債務超過の状態となっており、その額は 43,035 千円であります。

当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社は当該状況を解消すべく、業績の改善と財務体質強化を図り、継続的に安定した経営基盤を構築すべく以下のとおり対応しております。

##### ①新たな販路拡大と高付加価値商品の開発

当社は既存市場であるレディース和装市場での営業部人員の増員による受注拡大に取り組む一方で、新たな販路の拡大として、国内外での生地卸を予定しております。新規格の織機を導入し、海外での展示会へ出展することで認知度を高め、販路開拓に努めてまいります。卸売りの受注も増えており、卸売り先にも高評価を得ております。卸先の開拓も、引き続き努めてまいります。

工数が少なく、オールシーズン着用可能な帯の継続製品を適時投入し、ブランドイメージの向上・受注拡大に寄与しております。「粋匠匠織」と銘打ったきものシリーズも好評を博しており、さらに後続の商品開発に取り組んでおります。

今後も新たな販路の開拓に取り組むことで売上高の増加に努める一方、高付加価値商品の開発に取り組むことで収益性の向上に努めてまいります。

##### ②男きもの事業の確立

当社は平成 26 年 4 月より男きもの販売を開始しており、男きもの事業の確立を目指します。当事業年度も引き続き各種媒体への衣装提供を行うことで男きもの認知度を高め、Web 広告を中心に、新規顧客の獲得に努めてまいります。また「月オシ」商品を打ち出し、既存顧客の維持と再来店率の向上にも努めてまいります。引き続き男きもの着付け教室を開催し、男きものへの潜在的な需要の掘り起しにも注力いたします。これまで、低価格高品質の商品を中心に商品の開発を進めておりましたが、既存顧客のニーズ、高価格帯を望まれる顧客のニーズにも対応できる商品の開発にも取り組み、定期的に店内催事を行うことで収益性の向上に努めてまいります。中長期的に男きもの市場を最重点市場と捉えており、当該市場でのシェア獲得に取り組んでまいります。

##### ③資金繰り

事業目標に応じた効果的なコスト削減に取り組み、事業及び運転資金の安定的な確保と維持に向け、資金を最大限に有効活用してまいります。海外での新規顧客開拓に必要な資金調達について、取引金融機関と協議を続けております。また、男きもの事業をグループ戦略と捉え、親会社より銀座本店の家賃支援、一部広告宣伝費の支援を受けております。

##### ④コスト削減

生産面では、織機配置・人員配置を適宜見直し、生産稼働率の安定化と操業度の向上を図り、工数の少ない高付加価値商品を企画・製造することで製品単位当たりのコスト削減に取り組んでおります。また、工数の多い一部製造品を外注することで、人件費を削減しております。製品化できない生地の二次加工にも取り組み、一層の製造原価の低減に取り組めます。

管理面では、商品の管理拠点を福岡本社から京都事業所に移設し、運賃の削減、商品の配送期間の短縮に取り組み、各種販売会へ相応しい商品を提供することで収益性の向上に努めてまいります。

また、経費の掛かる販売会への参加を控える等、販売会 1 回当たりの経費削減に取り組んでおります。

しかしながら、これらの施策をとっても業績改善については今後の市況等の変化により計画どおりに推進できず、資金繰りに重要な影響を及ぼす可能性があります。従って、現時点においては継続企業の前提に関する重要な不確実性が存在するものとして認識しております。

なお、中間財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間財務諸表には反映しておりません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、事業の種類別に「レディース和装事業」及び「男きもの事業」の2つを報告セグメントとしております。

「レディース和装事業」は主に、女性向けの帯・着物の製造、仕入及び販売をしております。「男きもの事業」は主に、男性向けの帯・着物の製造、仕入及び販売をしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの損失は営業損失ベースの数値であります。

これによるセグメント情報に与える影響はありません。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前中間会計期間（自 平成 28 年 1 月 1 日 至 平成 28 年 6 月 30 日）

（単位：千円）

	報告セグメント			その他	合計
	レディース和装事業	男きもの事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	288,139	35,595	323,734	—	323,734
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	288,139	35,595	323,734	—	323,734
セグメント利益又は損失 (△)	△6,473	△5,543	△12,017	—	△12,017
セグメント資産	110,160	57,449	167,610	86,865	254,476
その他の項目					
減価償却費	111	1,115	1,227	134	1,361
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	—	—	—	—	—

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに帰属しない全社資産であります。

当中間会計期間（自 平成 29 年 1 月 1 日 至 平成 29 年 6 月 30 日）

（単位：千円）

	報告セグメント			その他	合計
	レディース和装事業	男きもの事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	560,578	29,377	589,955	—	589,955
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	560,578	29,377	589,955	—	589,955
セグメント利益又は損失 (△)	8,067	△4,355	3,712	—	3,712
セグメント資産	136,214	50,123	186,337	101,144	287,482
その他の項目					
減価償却費	93	—	93	139	232
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,938	—	2,938	160	3,098

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに帰属しない全社資産であります。

【関連情報】

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報「3. 報告セグメントごとの売上高、利益または損失、資産その他の項目の金額に関する情報」をご参照ください。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。